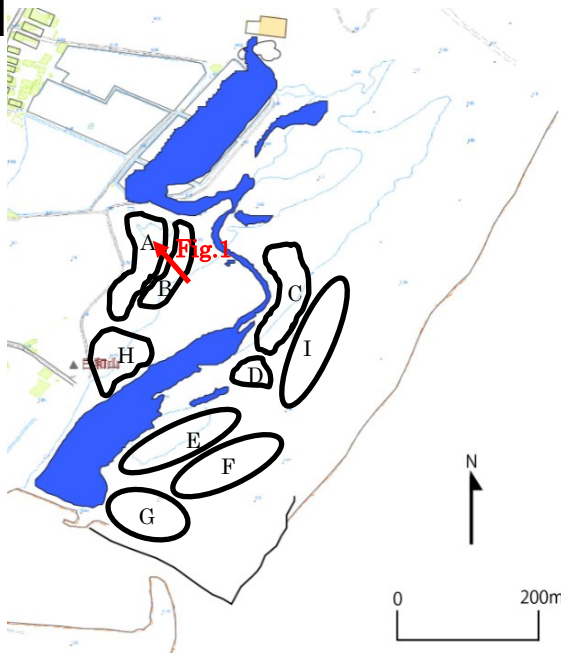


蒲生干潟の植物②



2020/05/15 調査エリア 2020年5月調査



Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアHで撮影



Fig.3 エリアCで撮影



Fig.4 エリアFで撮影

調査日時：2020年5月15日（金）10:30～12:30、天気：くもり

一ヶ月前の植物の様子と比較しながら、潟湖周辺の植生調査を継続した。エリアAを南東方面から見ると、一ヶ月前は、枯れたヨシが目立っていたが、今回は1m程の高さまで若いヨシが伸びてきていた(Fig. 1)。エリアBにはハマツナの新芽が多く、特にエリアHでは、地面が薄く緑に見えるほどハマツナの新芽が増えていた(Fig. 2)。エリアCでは、コウボウシバの若芽が目立っていた(Fig. 3)。エリアIでは、コウボウムギが若い芽を出し、ハマヒルガオ(Fig. 5)の若い葉やつぼみが見られた。また、ハマニガナ(Fig. 6)やハマエンドウ(Fig. 4)は花を咲かせていた。ハマエンドウは、エリアI, エリアF, エリアGなどで群生していた。



Fig.5 エリアIで撮影



Fig.6 エリアIで撮影



Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアFで撮影

エリアEでは、エリアHと同様ハマツナの新芽によりエリア全体が薄く緑色に見えるようになってきた。エリアFではコウボウシバが多く、ハマニンニクも見られた中、黄色い花を咲かせるコマツヨイグサ(Fig. 7)を一輪だけ見ることができた。また、エリアFの中でも東側の乾燥したエリアにはハマボウフウ(Fig. 8)の葉が青々と茂ってきていた。エリアGは乾燥したエリアで、ハマニガナ、ハマニンニク、コウボウシバが見られ、より乾燥したエリアでは、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、コウボウムギが見られた。